

JF日本語教育スタンダードを使ってみる

各教育現場でコースデザインをするとき、学習目標を設定し、目標に合った学習成果の評価について考えることが必要になります。図2-1は、コースをデザインするときの作業を流れ図で示したものです。この作業の流れの中で、学習目標を明確にし、学習成果の評価を考えるために、「JFスタンダードの木」「Can-do」「ポートフォリオ」を参考にすることができます。

「Can-do」を使って学習目標を明確にする

コースデザインをする際、教師と学習者が目標を共有し、学習者が目標を意識して学習を進めるために、「JFスタンダードの木」や「Can-do」を使って「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作成します。「学習目標一覧」によって、目標と授業活動の関係を理解しやすくなります。「自己評価チェックリスト」によって、学習者は自分の日本語能力をコースの前後、またはコース途中で把握することができ、目標や学習の達成度を意識して学習を進めることができます。

「Can-do」を使って学習成果の評価を考える

コースデザインをする際、学習目標に合った評価基準を考え、目標と評価を一貫性のあるものにするために、「Can-do」を使って、「評価基準」と「評価シート」を作成します。

これらは、「ポートフォリオ」に入れて、学習成果の評価のために使います。JFスタンダードの「Can-do」を、学習目標の設定と学習成果の評価基準作成に使うことで、目標と評価を一貫性のあるものにすることができます。

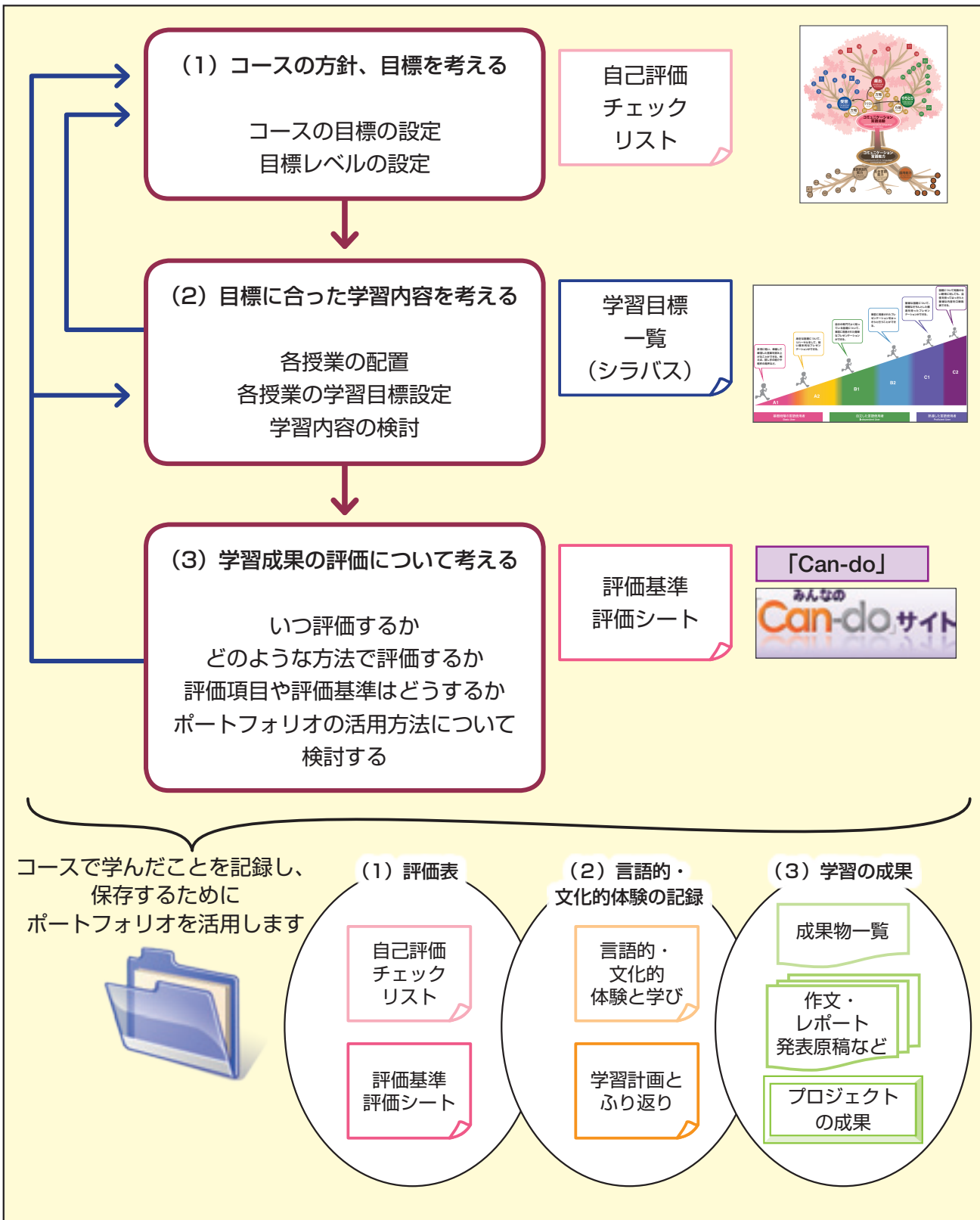
「ポートフォリオ」を評価のツールとして活用する

ポートフォリオを評価のツールとして活用します。学習者が自分の学習過程を記録・保存し、ふり返りやすい構成や形式を考えます。JFスタンダードでは、ポートフォリオを、「評価表」「言語的・文化的体験の記録」「学習の成果」の3つの構成要素で考えることを提案していますが、各教育現場の学習者のニーズや目的に応じて独自のポートフォリオを作成します。

ここでは、具体的なコースを想定して、「JFスタンダードの木」「Can-do」「ポートフォリオ」の活用例を紹介します⁽¹⁾。そして、「2.1「Can-do」を使って学習目標を明確にする」では、「Can-do」を使った「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」の作成手順を、「2.2「Can-do」を使って学習成果の評価を考える」では、「Can-do」を使った「評価基準」と「評価シート」の作成手順を紹介します。

(1) 「JFスタンダードの木」「Can-do」「ポートフォリオ」についての詳しい説明は、『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』pp.3-34をご参照ください。

図 2-1 コースをデザインする



使ってみる

*コースデザインは、(1) コースの方針、目標を考える、(2) 目標に合った学習内容を考える、(3) 学習成果の評価について考える、の3段階で進めますが、これら3つの内容は、相互に関連していますので、図2-1で青の矢印で示しているように、必要に応じて前の段階の作業に戻って確認しながら作業を進めます。

■このコースの場合…

次のような具体的なコースを想定して、「JFスタンダードの木」「Can-do」「ポートフォリオ」の活用方法を紹介します。

A国 ○△□日本語学校 大人を対象とした日本語コース

学習者に関する情報

- 学習者
教師、ビジネスマン、大学生など20名
来日経験のある人もない人もいる。
- 学習歴
日本語学習経験がある。
日本人と基本的なやりとりはあまり問題なくできる。
- レベル
レベルは現在A2程度。目標とするレベルはB1。
- 学習目的／動機
 - 日本の社会や文化について理解を深め、仕事などで出会う日本人と日本語で円滑なコミュニケーションができるようになりたい。
 - 身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について、ある程度詳しく、わかりやすく話せるようになりたい。

カリキュラムに関する情報

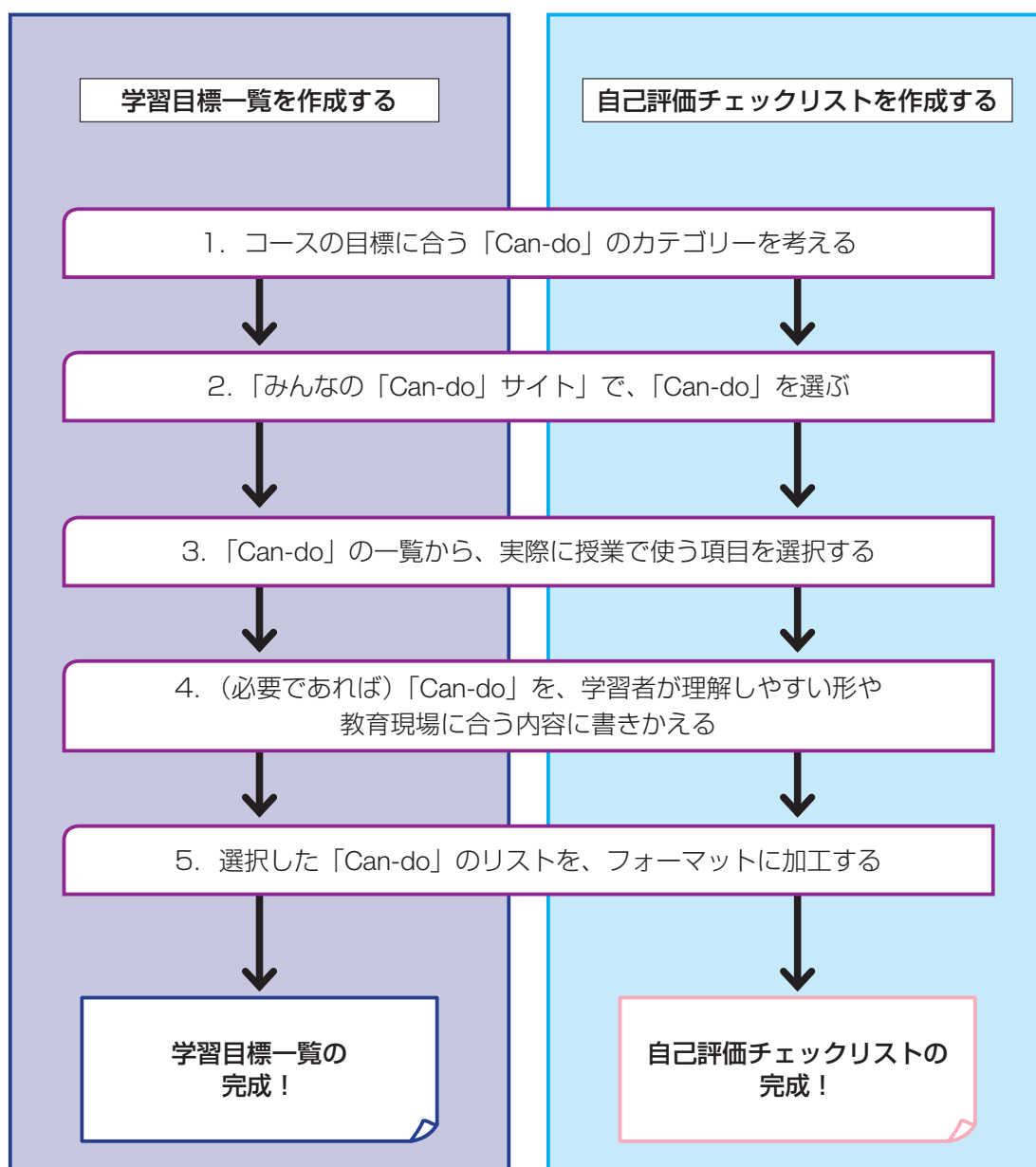
- コースの目標
 - 日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
 - 仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にも触れながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。
- 学習時間
総学習時間：42時間（3時間×14回）
ただし、初回は「オリエンテーション」、最終回は「まとめ」の時間とするため、授業は、3時間×12回となる。
- 学習内容
トピックごとに学習を進める。
「自分と家族」、「旅行と交通」、「買い物」、「仕事と職業」、「人との関係」、「言語と文化」の6トピックを学習する。
1トピックは3時間×2回で学習する。
- 使用教材
特に教材は決まっていない。教師が独自に作成した教材を使用する。
- 学習成果の評価
 - ポートフォリオを活用して学習成果の評価を行う。
 - 学習者はコースの開始時と終了時に「自己評価チェックリスト」を使った自己評価を行う。
 - 授業の中で、3つのトピック（旅行と交通、仕事と職業、言語と文化）で口頭発表を行い、「評価基準」と「評価シート」を使って評価する。
 - 最終回到3つのトピックで行った口頭発表のどれか1つを「会話テスト」として行う。
 - 学習者はトピックごとに、学習を通じて、日本人の考え方や習慣・文化、自分自身の考え方や自国の習慣・文化について、新しく気づいたこと、考えたことなどを「ふり返しシート」に書く。

* 「自己評価チェックリスト」と口頭発表の「評価基準」「評価シート」を、ポートフォリオの【①評価表】に入れる。「ふり返しシート」を、ポートフォリオの【②言語的・文化的体験の記録】に入れる。発表原稿や提示資料、録音した音声などを、ポートフォリオの【③学習の成果】に入れる。

2.1 「Can-do」を使って学習目標を明確にする

コースデザインをする際、教師と学習者が目標を共有し、学習者が目標を意識して学習を進めるために、「JFスタンダードの木」や「Can-do」を使って「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作成します。学習目標一覧と自己評価チェックリストを作成する全体の流れは、図2-2のようになります。

図2-2 「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」作成の流れ



■このコースの場合… 一学習目標一覧を作る一

「A国 ○△□日本語学校 大人を対象とした日本語コース」を例にして、このコースの各トピックの学習目標一覧を作ります。

ステップ1 コースの目標に合う「Can-do」のカテゴリーを考える

このコースの目標は、以下の2点でした。

- ・日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- ・仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にも触れながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

まず、「JF スタンドardsの木（折込み）」を見てみましょう。

上記のこのコースの目標は、コミュニケーション言語活動を表わすもののうち、【⑬経験や物語を語る】、【⑯講演やプレゼンテーションをする】というカテゴリーと関係ありそうです。

ステップ2 「みんなの「Can-do」サイト」で「Can-do」を選ぶ

【⑬経験や物語を語る】と【⑯講演やプレゼンテーションをする】のカテゴリーの「Can-do」のうち、このコースの目標レベルであるB1で、このコースで取り上げる6つのトピック（「自分と家族」、「仕事と職業」、「買い物」、「旅行と交通」、「食生活」、「言語と文化」）の「Can-do」を選択します。

ステップ3 「Can-do」の一覧から、実際に授業で扱う項目を選択する

選択した「Can-do」の一覧の中から、授業の中で実際に行う学習活動を記述した「Can-do」はどれかを考え、必要なものを選びます。

ステップ4 （必要であれば）「Can-do」を学習者が理解しやすい形や教育現場に合う内容に書きかえる

⇒「MY Can-do とは？」(p.21)

選んだ「Can-do」の記述内容が難しい場合は、学習者の母語に翻訳したり、簡単な日本語に書きかえたりしましょう。

ステップ5 選択した「Can-do」の一覧を学習目標一覧のフォーマットに加工する

図 2-3 学習目標一覧の例

学習目標

○△□日本語学校 2010年度 大人を対象とした日本語コース

【コースの目標】

- 日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を思っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- 仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にも触れながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

回	トピック	学習目標
1	オリエンテーション	
2	自分と家族	新しく知り合った日本人に、自分自身の長所や短所について、ある程度詳しく話すことができる。
3		
4	仕事と職業 【評価①】	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。
5		
6	買い物	日本人と一緒に買い物に出かけたとき、自国で人気のある特産品やファッションなどについて、日本の特産品やファッションとの違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。
7		
8	旅行と交通 【評価②】	日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。
9		
10	食生活	日本人と食事をしているとき、自国と日本の食生活（マナーや食べ物など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。
11		
12	言語と文化 【評価③】	日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。
13		
14	まとめ	

■このコースの場合… 一自己評価チェックリストを作る一

「A国 ○△□日本語学校 大人を対象とした日本語コース」を例にして、このコースの自己評価チェックリストを作ります。

ステップ1 コースの目標に合う「Can-do」のカテゴリーを考える

このコースの目標は、以下の2点でした。

- ・日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- ・仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にも触れながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

まず、「JFスタンダードの木」(折込み)を見てみましょう。

上記のこのコースの目標は、コミュニケーション言語活動を表わすもののうち、【13 経験や物語を語る】、【16 講演やプレゼンテーションをする】、【33 表現方法を考える】、【34 (表現できないことを) 他の方法で補う】、【35 自分の発話をモニターする】というカテゴリーが関係ありそうです。

ステップ2 「みんなの「Can-do」サイト」で「Can-do」を選ぶ

前のステップで考えた【13 経験や物語を語る】、【16 講演やプレゼンテーションをする】、【33 表現方法を考える】、【34 (表現できないことを) 他の方法で補う】、【35 自分の発話をモニターする】のカテゴリーの「Can-do」のうち、学習者の現時点のレベルであるA2と、目標とするレベルであるB1の「Can-do」を選択します。今回は、コースの開始時と終了時に自己評価チェックリストを使うため、トピックが限定されていない「Can-do」を選びました。

ステップ3 「Can-do」の一覧から、実際に授業で扱う項目を選択する

授業の中で実際に取り上げたい「Can-do」はどれかを考え、必要なものを選びます。

ステップ4 (必要であれば)「Can-do」を学習者が理解しやすい形や教育現場に合う内容に書きかえる ⇒「MY Can-do とは？」(p.21)

選んだ「Can-do」の記述が難しい場合は、学習者の母語に翻訳したり、簡単な日本語に書きかえたりしましょう。

ステップ5 選択した「Can-do」の一覧を自己評価チェックリストのフォーマットに加工する

図2-4 自己評価チェックリストの例

自己評価チェックリスト

○△□日本語学校 2010年度 大人を対象とした日本語コース

名前：

		A2	初日	最終日			B1	初日	最終日
活 動		出来事や活動の要点を短く述べることができる。					自分の関心事で、馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べるができる。		
		計画、準備、習慣、日課、過去の活動や個人の経験を述べるができる。					事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語り、記述ができる。		
		好きか嫌いかを述べるができる。					自分の感情や反応を記述しながら、経験を詳細に述べるができる。		
		事柄を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べるができる。					夢や希望、野心を述べるができる。		
		自分の毎日の生活に直接関連のある話題については、リハーサルして、短いプレゼンテーションができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて、短く述べるができる。					自分の専門でよく知っている話題について、事前を用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそれぞれ正確に述べるができる。		
		話し終えた後、限られた数の簡単な質問に対処することができる。					質問には対応できるが、そのスピードが速い場合は、もう一度繰り返すことを頼むこともある。		
方 略		自分のレパートリーの中から適切な表現形を思い出して、使ってみることができる。					伝えたいことの要点を伝達する仕方を考えることができる。使える言語能力を総動員して、表現のための手段が思い出せる、あるいは見つかる範囲内にメッセージの内容を限定する。		
		手持ちの言葉の中から不適切な言葉を使っても、言いたいことをはっきりとさせるためにジェスチャーを使うことができる。					母語を学習対象言語の形に変えて使ってみて、相手に確認を求めることができる。		
							伝えたい概念に類似した意味を持つ、簡単な言葉を使い、聞き手にそれを正しい形に「修正」してもらうことができる。		
							コミュニケーションが失敗したときは、別の方略を用いて直すことができる。		
						自分が使った言語形式が正しいかどうか確認することができる。			

マーク
 自信がある できる 難しい これからがんばりたい

使
っ
て
み
る

MY Can-do とは？
 JF スタンダードでは、各現場で独自に作成した「Can-do」をMY Can-do と呼びます。

■なぜMY Can-do が必要？
 「みんなの「Can-do」サイト」で提供している「Can-do」が自分の教育現場の状況に合わないときは、MY Can-do を作成します。MY Can-do を作成することで、次のような利点があります。

- ・ 場面などをより具体的にすることで、現場の状況に合った「Can-do」にすることができる。
- ・ 記述をやさしくしたり、母語に訳したりすることで、学習者にもわかりやすい目標や評価基準にすることができる。

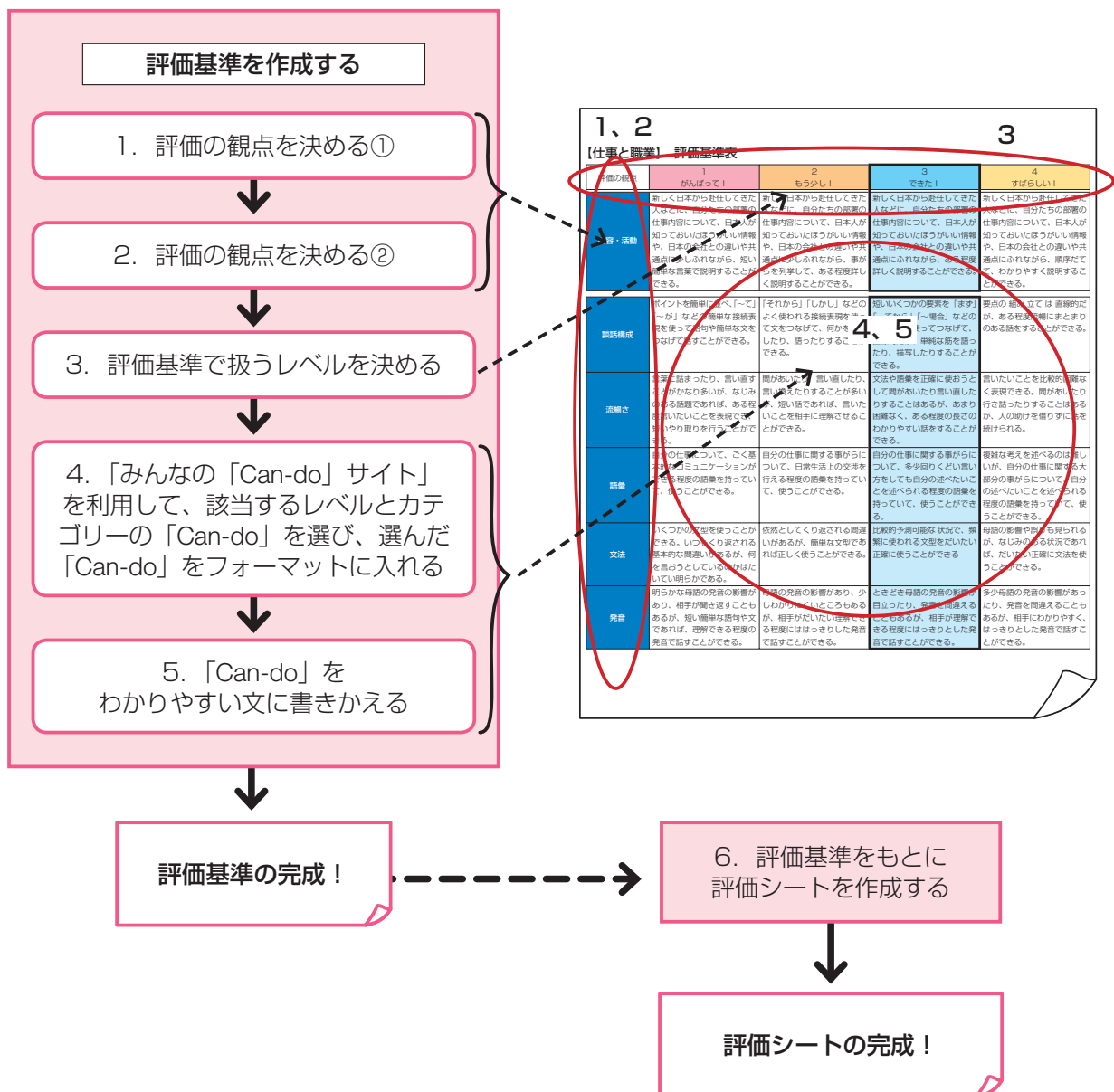
■MY Can-do の作り方
 どのような条件ならできるか、どのような話題なら扱えるか、どのようなこと・ものをどのくらいできるかなど、条件や話題、対象、行動にレベルの特徴を付け加えることで、共通の言語熟達度の尺度にもとづいたMY Can-do を作成することができます。詳しい作り方については、『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』pp.17-21を参照してください。

2.2 「Can-do」を使って学習成果の評価を考える

コースデザインをする際、学習目標に合った評価基準を考え、目標と評価を一貫性のあるものにするために、「Can-do」を使って「評価基準」と「評価シート」を作成します。

評価基準と評価シートを作成する全体の流れは、図2-5のようになります。

図 2-5 「評価基準」と「評価シート」作成の流れ



使ってみる

■このコースの場合… —評価基準と評価シートを作る—

「A国 ○△□日本語学校 大人を対象とした日本語コース」の、「仕事と職業」のトピックを例にして、「口頭発表」の「評価基準」と「評価シート」を作成します。

「仕事と職業」のトピックの学習目標は、「新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく話すことができる」です。評価基準を作成する流れについて、図2-5の流れにしたがって、ステップごとに見ていきましょう。

ステップ1 評価の観点を決める①

このコースで目標とするB1レベルの産出（話す）の「Can-do」を見ながら、どのようなコミュニケーション言語能力が必要かを考えます。ここでは、以下のようなカテゴリーが必要だと考えました。

【④2 使用語彙領域】、【④3 語彙の使いこなし】、【④4 文法的正確さ】、【④5 音素の把握】

【⑤0 話題の展開】、【⑤1 一貫性と結束性】、【⑤2 話しことばの流暢さ】

ステップ2 評価の観点を決める②

トピックの学習目標も、評価の観点の1つとして利用します。

「仕事と職業」

新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく話すことができる。

ステップ3 評価基準で扱うレベルを決める

このコースでは、学習者の話す力の差が小さいため、コースの目標レベルであるB1の「Can-do」と、学習者の現在の熟達度であるA2の「Can-do」を利用して、評価基準を作成します。学習者の話す力に大きな差がある場合は、A1からB2までを利用するなど、教育現場の現状に合わせて、評価基準で扱うレベルの幅を検討してください。

ステップ4 「みんなの「Can-do」サイト」を利用して選んだ「Can-do」をフォーマットに入れる

ステップ1で選んだカテゴリーのA2とB1の「Can-do」を「みんなの「Can-do」サイト」から出力し、フォーマットの各欄に配置します。

ステップ5 「Can-do」をわかりやすい文に書きかえる

⇒「MY Can-doとは？」(p.21)

評価基準のフォーマットに入れた「Can-do」を、もとの内容を活かしながら、学習者にもわかりやすい文に書きかえます。学習者の母語が同じ場合は、母語を利用することもできます。達成できていないことや足りない点を書くのではなく、達成できていることを前向きな表現で書くことによって、学習者の動機づけとなります。図2-6は、完成した評価基準の例です。

ステップ6 評価基準をもとに、評価シートを作成する

ステップ5で完成した評価基準をもとに、発表者用と教師用の評価シートを作成します。

このコースでは、評価基準のフォーマットと記述内容をそのまま利用し、あてはまる達成度にチェックする方法にしました。評価シートには、学習者や教師が自由にコメントを記述する欄を設けました。

図2-7は、評価基準を利用して作成した発表者用の評価シートの例です。

図 2-6 完成した評価基準の例

【仕事と職業】 評価基準表				
評価の観点	1 がんばって！	2 もう少し！	3 できた！	4 すばらしい！
内容・活動	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事らを列挙して、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。
談話構成	ポイントを簡単に並べ、「～で」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。	「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。	短いいくつかの要素を「まず」「～てから」「～場合」などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。	要点の組み立ては直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をするすることができる。
流暢さ	言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。	間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。	文法や語彙を正確に使うとて間があいたり言い直したりすることはあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をするすることができる。	言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。
語彙	自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、日常生活上の交渉を行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、多少回りくどい言い方をしても自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事柄について、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。
文法	いくつかの文型を使うことができる。いつもくり返される基本的な間違いがあるが、何を言おうとしているのかはたいてい明らかである。	依然としてくり返される間違いがあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。	比較的予測可能な状況で、頻繁に使われる文型をだいたい正確に使うことができる。	母語の影響や誤りも見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。
発音	明らかな母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。	母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりした発音で話すことができる。	ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手が理解できる程度にはっきりとした発音で話すことができる。	多少母語の発音の影響があったり、発音を間違えることもあるが、相手にわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。

使ってみる

図 2-7 評価基準をもとに作成した評価シートの例

〈発表者用〉				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 仕事と職業 </div>		【目標】 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。		名前
評価の観点	1 がんばって!	2 もう少し!	3 できた!	4 すばらしい!
内容・活動	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事柄を列挙して、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。
談話構成	ポイントを簡単に並べ、「～て」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。	「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。	短いいくつかの要素を「まず」「～てから」「～場合」などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。	要点の組み立ては直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をするすることができる。
流暢さ	言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。	間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。	文法や語彙を正確に使用おうとして間があいたり言い直したりすることはあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をするすることができる。	言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。
語彙	自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、日常生活上の交渉を行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、多少回りくどい言い方をして自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事柄について、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。
文法	いくつかの文型を使うことができる。決まって犯す基本的な間違いがあるが、何を言おうとしているのかはたいいてい明らかである。	依然として繰り返される間違いがあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。	比較的予測可能な状況で、頻りに使われる文型をだいたい正確に使うことができる	母語の影響や誤りも見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。
発音	明らかな母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。	母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりした発音で話すことができる。	ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手が理解できる程度にはっきりとした発音で話すことができる。	多少母語の発音の影響があったり、発音を間違えることもあるが、相手にわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。
できたこと／よかったところ		むずかしかったこと／これからがんばること		

使ってみる